

親動物に関しては、雄で離乳後約 10 週間、雌で離乳後約 5 週間を試験期間とした。

表 35 1 世代繁殖試験（ラット）の平均検体摂取量

投与群		50 ppm	200 ppm	2,000 ppm	20,000 ppm	
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	P 世代	雄	3.25	12.9	127	1,290
		雌	3.84	15.0	149	1,490
	F ₁ 世代	雄	4.05	15.9	160	1,610
		雌	5.28	21.0	206	2,090

各投与群で認められた毒性所見は表 36 に示されている。

2,000 ppm 以上投与群の F₁ 雄動物において包皮分離完了の遅延が認められたが、同世代雄動物で測定した肛門生殖突起間距離 (AGD) の短縮がなく、むしろこれらの群では大きい値を示しており、少なくとも検体が抗アンドロゲン作用によって性成熟を遅延させているのではないと考えられた。

本試験において、親動物では 2,000 ppm 以上投与群の雄で包皮分離完了遅延等、200 ppm 以上投与群の雌で腎絶対及び比重量増加等が認められ、児動物では 2,000 ppm 以上投与群の雌雄で肝絶対及び比重量増加等が認められたので、無毒性量は親動物の雄で 200 ppm (P 雄 : 12.9 mg/kg 体重/日、F₁ 雄 : 15.9 mg/kg 体重/日)、雌で 50 ppm (P 雌 : 3.84 mg/kg 体重/日、F₁ 雌 : 5.28 mg/kg 体重/日)、児動物で 200 ppm (F₁ 雄 : 12.9 mg/kg 体重/日、F₁ 雌 : 15.0 mg/kg 体重/日) であると考えられた。繁殖能に対する影響は認められなかった。(参照 33)

表 36 1 世代繁殖試験（ラット）で認められた毒性所見

投与群	親 : P、児 : F ₁		親 : F ₁	
	雄	雌	雄	雌
20,000 ppm	・甲状腺腫大及び褐色化 ・肝絶対及び比重量増加	・甲状腺絶対及び比重量増加	・肝暗調化 ・甲状腺褐色化 ・肝絶対及び比重量増加	・肝腫大 ・甲状腺比重量増加
2,000 ppm 以上	2,000 ppm 以下 毒性所見なし	・肝腫大 ・甲状腺褐色化 ・肝絶対及び比重量増加 ・腎、卵巣及び子宮絶対重量増加	・下垂体絶対及び比重量減少 ・包皮分離完了遅延	・肝暗調化 ・肝及び卵巣絶対及び比重量増加
200 ppm 以上		・肝暗調化	200 ppm 以下 毒性所見なし	・腎絶対及び比重量増加 ・下垂体絶対及び比重量減少
50 ppm		毒性所見なし		毒性所見なし

児動物	20,000 ppm	・眼球腫大 ・体重増加抑制 ・胸腺絶対重量減少	・眼球腫大 ・体重増加抑制 ・甲状腺絶対重量減少
	2,000 ppm 以上	・肛門生殖突起間距離増加 ・肝暗調化 ・肝絶対及び比重量増加 ・脾絶対及び比重量減少 ・甲状腺絶対重量減少	・肝暗調化 ・肝絶対及び比重量増加 ・脾及び胸腺絶対及び比重量減少
	200 ppm 以下	毒性所見なし	毒性所見なし

(3) 発生毒性試験 (ラット)

Wistar ラット (一群雌 24 匹) の妊娠 6~19 日に強制経口 (原体: 0、10、100 及び 1,000 mg/kg 体重/日、溶媒: 1%CMC) 投与して発生毒性試験が実施された。

母動物では、100 mg/kg 体重/日以上投与群で肝絶対及び比重量増加が認められた。

胎児には、検体投与の影響は認められなかった。

本試験において、母動物の 100 mg/kg 以上投与群で肝絶対及び比重量増加が認められ、胎児では毒性所見は認められなかったため、無毒性量は母動物で 10 mg/kg 体重/日、胎児で本試験の最高用量 1,000 mg/kg 体重/日であると考えられた。催奇形性は認められなかった。(参照 34)

(4) 発生毒性試験 (ウサギ)

日本白色種ウサギ (一群雌 25 匹) の妊娠 6~27 日に強制経口 (原体: 0、20、100 及び 1,000 mg/kg 体重/日、溶媒: 1%CMC) 投与して発生毒性試験が実施された。

母動物では、1,000 mg/kg 体重/日投与群において、妊娠末期に摂餌量減少及び軟便が認められた。

胎児には、検体投与の影響は認められなかった。

本試験において、母動物の 1,000 mg/kg 体重/日投与群で摂餌量減少等が認められ、胎児では毒性所見は認められなかったため、無毒性量は母動物で 100 mg/kg 体重/日、胎児で本試験の最高用量 1,000 mg/kg 体重/日であると考えられた。催奇形性は認められなかった。(参照 35)

(5) 発達神経毒性試験 (ラット)

Wistar ラット (一群雌 30 匹) の妊娠 6 日~哺育 21 日に混餌 (原体: 0、120、1,200 及び 12,000 ppm: 平均検体摂取量はそれぞれ 0、9.9、99.5 及び 980 mg/kg 体重/日) 投与して発達神経毒性試験が実施された。

各投与群で認められた毒性所見は表 37 に示されている。

12,000 ppm 投与群の雄で水迷路検査における所要時間の高値 (17.3 秒) がみられたが、対照群との差は僅かであり、雌で同様な変化はなく、さらに背景データ (11.3~21.4 秒) の範囲内であったことから、検体投与とは関係しないと考えられた。神経病理組織学的検査では、検体投与に関連する変化はみられなかった。

本試験において、母動物では 1,200 ppm 以上投与群で小葉中心性肝細胞肥大等、児動物では 1,200 ppm 以上投与群で包皮分離発現日遅延等が認められたので、無毒性量は母動物及び児動物で 120 ppm (9.9 mg/kg 体重/日) であると考えられた。発達神経毒性は認められなかった。(参照 55)

表 37 発達神経毒性試験 (ラット) で認められた毒性所見

投与群	母動物	児動物
12,000 ppm		<ul style="list-style-type: none"> ・眼の異常¹⁾ (眼赤色化、眼球腫大、角膜混濁、眼球突出、虹彩腫大、対光反射の消失、網膜変性、角膜炎、鉍質沈着、虹彩前癒着、ブドウ膜炎、白内障及び視神経の萎縮) ・臆開口発現日遅延
1,200 ppm 以上	<ul style="list-style-type: none"> ・肝絶対及び比重量増加 ・小葉中心性肝細胞肥大 	<ul style="list-style-type: none"> ・体重増加抑制²⁾ ・包皮分離発現日遅延
120 ppm	毒性所見なし	毒性所見なし

1): 眼の異常については、発生頻度に有意差のない所見もあったが、いずれも検体投与に関連した変化と考えられた。

2): 1,200 ppm については有意差がみられなかったが、検体投与に関連した変化と考えられた。

13. 遺伝毒性試験

フルベンジアミドの細菌を用いた復帰突然変異試験、チャイニーズハムスター肺由来 (V79) 細胞を用いた遺伝子突然変異試験、チャイニーズハムスター肺由来 (CHL) 細胞を用いた染色体異常試験及びマウスを用いた小核試験が実施された。

試験結果は表 38 に示されているとおり、全て陰性であった。フルベンジアミドに遺伝毒性はないものと考えられた。(参照 36~38、62、68、69)

表 38 遺伝毒性試験結果概要 (原体)

試験	対象	処理濃度・投与量	結果	
<i>in vitro</i>	復帰突然変異試験	<i>Salmonella typhimurium</i> (TA98, TA100, TA1535, TA1537 株) <i>Escherichia coli</i> (WP2uvrA 株)	1.22~5,000 µg/7 ^o ㄨト (+/-S9)	陰性
	遺伝子突然変異試験	チャイニーズハムスター肺由来 (V79) 細胞 (<i>Hprt</i> 遺伝子座)	7.5~240 µg/mL (+/-S9)	陰性
	染色体異常試験	チャイニーズハムスター肺由来 (CHL) 継代培養細胞	125~2,200 µg/mL (-S9) 550~2,200 µg/mL (+S9)	陰性

<i>in vivo</i>	小核試験	ICR マウス (骨髄細胞) (一群雌雄各 5 匹)	500、1,000、2,000 mg/kg 体重 (強制単回経口投与)	陰性
		NMRI マウス (骨髄細胞) (一群雄各 5 匹)	1,000、2,000、4,000 mg/kg 体重 (1 日 1 回、24 時間間隔で 2 回 連続腹腔内投与)	陰性

注) +/-S9 : 代謝活性化系存在下及び非存在下

主として植物、土壌及び水中由来の代謝物 B 及び C の細菌を用いた復帰突然変異試験が実施された。結果は表 39 に示されているとおり、全て陰性であった。
(参照 39、40)

表 39 遺伝毒性試験結果概要 (代謝物)

被験物質	試験	対象	処理濃度・投与量	結果
代謝物 B	復帰突然変異試験	<i>S. typhimurium</i> (TA98、TA100、TA1535、 TA1537 株) <i>E. coli</i> (WP2uvrA 株)	1.22~5,000 µg/l ^a レート (+/-S9)	陰性
代謝物 C	復帰突然変異試験	<i>S. typhimurium</i> (TA98、TA100、TA1535、 TA1537 株) <i>E. coli</i> (WP2uvrA 株)	1.22~5,000 µg/l ^a レート (+/-S9)	陰性

注) +/-S9 : 代謝活性化系存在下及び非存在下

1.4. その他の試験

(1) ラットの甲状腺関連ホルモン濃度及び肝薬物代謝酵素に対する影響

反復経口投与による各種毒性試験 [10.~12.] において、検体投与による甲状腺への影響が認められたため、Fischer ラット (一群雌 20 匹) に混餌 (原体: 0、1,000 及び 10,000 ppm : 平均検体摂取量はそれぞれ 0、83 及び 812 mg/kg 体重/日に相当) 投与し、甲状腺関連ホルモン濃度及び肝薬物代謝酵素に対するフルベンジアミドの影響について検討された。なお、各群 20 匹のラットを 10 匹ずつのサブグループ A 及び B に分け、A には 28 日間、B には 7 日間投与した。

検体投与により UDPGT 活性の誘導が認められた。これは T₄ 代謝の亢進による血中甲状腺ホルモンの代謝亢進を示唆するが、同酵素の誘導剤で認められるべき血清 T₄ 及び T₃ 濃度の減少を伴わずに TSH 濃度が増加していたことから、甲状腺への影響は肝臓の酵素誘導によるフィードバックメカニズムだけでは十分に説明できないと考えられた。(参照 42)

(2) *in vitro* におけるヨードサイロニン脱ヨード酵素 type1 に対する影響

反復経口投与による各種毒性試験 [10.~12.] において、検体投与による甲状

腺への影響が認められたため、Wistar ラット雄 2 匹の肝臓を用いて、甲状腺ホルモン代謝、特に T_4 から T_3 への活性化酵素であるヨードサイロニン脱ヨード酵素 type1 に対するフルベンジアミドの影響について検討された。

試験の結果、添加可能最大濃度である 100 μM に至るまでヨードサイロニン脱ヨード酵素 type1 の活性に影響を及ぼさなかったことから、フルベンジアミドはこの酵素の阻害を通じて甲状腺ホルモンの恒常性維持に影響を及ぼすことはないことが示唆された。(参照 42)

(3) 1 世代繁殖試験における児動物の眼球の病理組織学的検査

ラットを用いた 2 世代繁殖試験 [12. (1)] 及び 1 世代繁殖試験 [12. (2)] において F_1 児動物で認められた眼球腫大の詳細を検討するため、1 世代繁殖試験の F_1 児動物を対象として、異常所見のある眼球について病理組織学的検査が実施された。さらに、その前駆病変の有無を検索するため、肉眼的異常が認められなかった眼球についても検査が実施された。

2,000 及び 20,000 ppm 投与群で眼球に肉眼的異常を示した離乳児では、虹彩癒着、出血、角膜炎、虹彩炎、白内障、角膜上皮基底細胞の水腫様変性及び角膜上皮空胞化という種々の組織学的変化が認められ、虹彩癒着による眼房水の排泄障害による眼圧増加が眼球腫大の原因である可能性が考えられた。肉眼的異常のない離乳児の眼球では検体の投与に関連した影響はみられず、1 世代繁殖試験における眼球への影響に関する無毒性量は 200 ppm であると考えられた。(参照 42)

(4) 混餌投与による眼発達に対する影響 (マウス)

ICR マウス (対照群: 雌 25 匹、投与群: 雌 28 匹) の妊娠 6 日～哺育 21 日に混餌 (原体: 0、2,000 及び 4,500 ppm) 投与して出生児の眼発達に対する影響が検討された。投与量については、平均検体摂取量が 1,000 mg/kg 体重/日となるように、妊娠 6 日～哺育 3 日の混餌濃度は 4,500 ppm、哺育 3 日～21 日では 2,000 ppm の混餌濃度を含有する試験飼料を自由に摂取させた。

母動物では、一般状態、体重変化及び繁殖能等への影響は認められなかった。

F_1 児動物において、哺育 7 日以降の体重及び体重増加量が軽度な低値を示したが、眼の異常は観察されず、他の一般状態、産児数及び生存率等への影響も認められなかった。

本試験において、フルベンジアミドの限界用量である 1,000 mg/kg 体重/日の混餌投与において出生児の眼発達に対する影響は認められなかった。(参照 62、70)

(5) 肝ミクロソーム画分による *in vitro* 代謝試験

フルベンジアミドの哺乳動物代謝における種差及び性差の原因を明らかにす

る目的で、雌雄の Fischer ラット、ICR マウス、ビーグル犬及びヒト（10 ドナー混合）の肝臓より調製したマイクロソーム画分を用いた *in vitro* 代謝試験が実施された。

ラットの場合、雄由来マイクロソームはフルベンジアミドの代謝物 E への顕著な水酸化活性を示したが、雌由来マイクロソームには同活性は認められなかった。

一方、ラットを除く他動物（マウス、イヌ及びヒト）由来のマイクロソームの場合、雌雄で同程度のフルベンジアミド水酸化活性を示した。（参照 42）

（6）28 日間免疫毒性試験（ラット）

Wistar ラット（一群雌雄各 10 匹）を用いて、混餌（原体：0、40、400 及び 4,000 ppm：平均検体摂取量は表 40 参照）投与による 28 日間免疫毒性試験が実施された。

表 40 28 日間免疫毒性試験（ラット）の平均検体摂取量

投与群		40 ppm	400 ppm	4,000 ppm
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	雄	3.34	33.6	336
	雌	4.00	38.4	359

4,000 ppm 投与群の雄で ALT、AST 減少、同投与群の雌で RBC、ALT 減少並びに甲状腺絶対及び比重量増加が認められ、400 ppm 以上投与群の雌で Hb 及び Ht 減少並びに肝絶対及び比重量増加が認められた。

FACS によるサブセット解析にて、4,000 ppm 投与群の雌雄で CD45^{total} 及び CD45^{high} 陽性脾臓細胞数の低下とそれに関連した CD45^{low} 陽性脾臓細胞数の増加が認められ、同群雌では IgA 減少が認められた。

本試験において、4,000 ppm 投与群の雄で ALT 及び AST の減少が、雌では 400 ppm 以上投与群で Hb 及び Ht の減少等が認められたので、一般毒性に対する無毒性量は、雄で 400 ppm（33.6 mg/kg 体重/日）、雌で 40 ppm（4.00 mg/kg 体重/日）であり、また、4,000 ppm 投与群の雌雄で CD45^{total} 及び CD45^{high} 陽性脾臓細胞数の低下等が認められたので、免疫毒性に対する無毒性量は雌雄とも 400 ppm（雄：33.6 mg/kg 体重/日、雌：38.4 mg/kg 体重/日）であると考えられた。（参照 62、71）

Ⅲ. 食品健康影響評価

参照に挙げた資料を用いて農薬「フルベンジアミド」の食品健康影響評価を実施した。なお、今回、ラット急性神経毒性試験、ラット免疫毒性試験、国内作物残留試験（とうもろこし、そば等）、海外作物残留試験（アーモンド及びペカン）等が新たに提出された。

¹⁴C で標識したフルベンジアミドを用いた動物体内運命試験の結果、ラットに単回投与後の血漿中濃度は低用量群で投与 6～12 時間後に、高用量群で投与 12 時間後に最高に達した。投与後 48 時間の吸収率は雄で少なくとも 23.5%、雌で少なくとも 34.1%と推定された。組織内では、投与後 9 時間で吸収部位である消化管（胃、小腸及び大腸）、肝臓、腎臓、副腎及び脂肪等に比較的高濃度に認められた。主な排泄経路は糞及び胆汁であったが、特に糞中への排泄が多かった。尿、糞及び胆汁における化合物の大部分を占めたのは親化合物であった。

¹⁴C で標識したフルベンジアミドを用いた植物体内運命試験の結果、残留放射能はほとんどが散布部位で認められ、その内容としては親化合物が大部を占め、他に主な代謝物として B、C、E 及び H が確認された。

野菜、果実、豆類、茶等を用いて、フルベンジアミド、代謝物 B 及び C を分析対象化合物とした作物残留試験が実施された。国内でのフルベンジアミドの最大残留値は、茶（荒茶）の 34.9 mg/kg であった。代謝物 B の最大残留値は、リーフレタスの 0.20 mg/kg であった。代謝物 C は全データが定量限界未満であった。海外でのフルベンジアミドの最大残留値は、ほうれんそうの 6.72 mg/kg であった。代謝物 B の最大残留値は、マスタードグリーン の 0.04 mg/kg であった。後作物残留試験の結果、いずれの作物でもフルベンジアミド、代謝物 B 及び C とともに定量限界未満であった。

各種毒性試験結果から、フルベンジアミド投与による影響は主に肝臓（肝細胞肥大、肝細胞脂肪化等）及び甲状腺（ろ胞上皮細胞肥大等）に認められた。神経毒性、発がん性、繁殖能に対する影響、催奇形性、発達神経毒性及び遺伝毒性は認められなかった。

マウス及びラットでは検体投与の影響による甲状腺の病理学的所見が認められたが、両種の変化は質的に異なり、種差があった。また、甲状腺の変化の原因として、肝臓の薬物代謝酵素誘導による間接的影響のほか、薬物の直接影響も考えられた。

繁殖試験の児動物で観察された眼球腫大の発現には、薬物投与と遺伝的背景（感受性の差）の両者が関与していると考えられた。しかし、発現機序の詳細については不明であった。

各種試験結果から、農産物中の暴露評価対象物質をフルベンジアミド（親化合物のみ）と設定した。

各試験における無毒性量等は表 41 に示されている。

食品安全委員会は、各試験で得られた無毒性量のうち最小値がラットを用いた 2

年間発がん性試験の 1.70 mg/kg 体重/日であったことから、これを根拠として、安全係数 100 で除した 0.017 mg/kg 体重/日を一日摂取許容量 (ADI) と設定した。

ADI	0.017 mg/kg 体重/日
(ADI 設定根拠資料)	発がん性試験
(動物種)	ラット
(期間)	2 年間
(投与方法)	混餌
(無毒性量)	1.70 mg/kg 体重/日
(安全係数)	100

表 41 各試験における無毒性量及び最小毒性量

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	無毒性量 (mg/kg 体重/日)	最小毒性量 (mg/kg 体重/日)	備考 ⁵
ラット	90 日間 亜急性 毒性試験	0、20、50、200、2,000、20,000 ppm 雄：0、1.15、2.85、11.4、116、1,190 雌：0、1.30、3.29、13.1、128、1,320	雄：11.4 雌：3.29	雄：116 雌：13.1	雄：PLT 増加 雌：小葉周辺性肝細胞脂肪化等
	1 年間 慢性毒性 試験	0、20、50、2,000、20,000 ppm 雄：0、0.781、1.95、79.3、822 雌：0、0.960、2.40、97.5、998	雄：1.95 雌：2.40	雄：79.3 雌：97.5	雌雄：甲状腺ろ胞上皮細胞肥大等
	2 年間 発がん性 試験	0、50、1,000、20,000 ppm 雄：0、1.70、33.9、705 雌：0、2.15、43.7、912	雄：1.70 雌：2.15	雄：33.9 雌：43.7	雌雄：小葉周辺性肝細胞脂肪化等 (発がん性は認められない)
	2 世代 繁殖試験	0、20、50、2,000、20,000 ppm P 雄：0、1.30、3.30、131、1,310 P 雌：0、1.59、3.95、159、1,580 F ₁ 雄：0、1.64、4.05、162、1,640 F ₁ 雌：0、1.84、4.59、176、1,810	親動物及び 児動物 P 雄：3.30 P 雌：3.95 F ₁ 雄：4.05 F ₁ 雌：4.59	親動物及び 児動物 P 雄：131 P 雌：159 F ₁ 雄：162 F ₁ 雌：176	親動物 雌雄：甲状腺ろ胞上皮細胞肥大等 児動物 雌雄：肝絶対及び比重量増加等 (繁殖能に対する影響は認められない)
	1 世代 繁殖試験	0、50、200、2,000、20,000 ppm P 雄：0、3.25、12.9、127、1,290 P 雌：0、3.84、15.0、149、1,490 F ₁ 雄：0、4.05、15.9、160、1,610 F ₁ 雌：0、5.28、21.0、206、2,090	親動物 P 雄：12.9 P 雌：3.84 F ₁ 雄：15.9 F ₁ 雌：5.28 児動物 F ₁ 雄：12.9 F ₁ 雌：15.0	親動物 P 雄：127 P 雌：15.0 F ₁ 雄：160 F ₁ 雌：21.0 児動物 F ₁ 雄：127 F ₁ 雌：149	親動物 雄：包皮分離完了遅延等 雌：腎絶対及び比重量増加等 児動物 雌雄：肝絶対及び比重量増加等 (繁殖能に対する影響は認められない)
	発生毒性 試験	0、10、100、1,000	母動物：10 胎児：1,000	母動物：100 胎児：-	母動物：肝絶対及び比重量増加

⁵ 備考に最小毒性量で認められた所見の概要を示す。

					胎児：毒性所見なし (催奇形性は認められない)
	発達神経 毒性試験	0、120、1,200、12,000 ppm ----- 雌：0、9.9、99.5、980	母動物及び 児動物：9.9	母動物及び 児動物：99.5	母動物：小葉中心性肝細胞肥大等 児動物：包皮分離発現日遅延等
マウス	90日間 亜急性 毒性試験	0、50、100、1,000、10,000 ppm ----- 雄：0、6.01、11.9、123、1,210 雌：0、7.13、14.7、145、1,420	雄：11.9 雌：14.7	雄：123 雌：145	雌雄：小葉中心性肝細胞肥大等 (本試験はガイドラインに準拠せず)
	18か月間 発がん性 試験	0、50、1,000、10,000 ppm ----- 雄：0、4.85、94、988 雌：0、4.44、93、937	雄：4.85 雌：4.44	雄：94 雌：93	雌雄：甲状腺ろ胞上皮細胞肥大等 (発がん性は認められない)
ウサギ	発生毒性 試験	0、20、100、1,000	母動物：100 胎児：1,000	母動物：1,000 胎児：-	母動物：摂餌量減少等 胎児：毒性所見なし (催奇形性は認められない)
イヌ	90日間 亜急性 毒性試験	0、100、2,000、40,000 ppm ----- 雄：0、2.58、52.7、1,080 雌：0、2.82、59.7、1,140	雄：2.58 雌：2.82	雄：52.7 雌：59.7	雌雄：副腎絶対及び比重量増加等
	1年間 慢性毒性 試験	0、100、1,500、20,000 ppm ----- 雄：0、2.21、35.2、484 雌：0、2.51、37.9、533	雄：2.21 雌：2.51	雄：35.2 雌：37.9	雄：肝比重量増加等 雌：ALP増加等

-：最小毒性量は設定できなかった。

<別紙 1 : 代謝物/分解物略称>

略称	化学名
B	<i>N</i> ² (2-メシル-1,1-ジメチルエチル)- <i>N</i> {4-[1,2,2,2-テトラフルオロ-1-(トリフルオロメチル)エチル]- <i>o</i> -トリル}フタルアミド
C	3-ヒドロキシ- <i>N</i> ² (2-メシル-1,1-ジメチルエチル)- <i>N</i> {4-[1,2,2,2-テトラフルオロ-1-(トリフルオロメチル)エチル]- <i>o</i> -トリル}フタルアミド
D	3-ヒドロキシ- <i>N</i> ² (2-メシル-1,1-ジメチルエチル)- <i>N</i> {4-[1-ヒドロキシ-2,2,2-トリフルオロ-1-(トリフルオロメチル)エチル]- <i>o</i> -トリル}フタルアミド
E	3-ヨード- <i>N</i> ² (2-メシル-1,1-ジメチルエチル)- <i>N</i> {2-(ヒドロキシメチル)-4-[1,2,2,2-テトラフルオロ-1-(トリフルオロメチル)エチル]フェニル}フタルアミド
F	3-ヨード- <i>N</i> ² (2-メシル-1,1-ジメチルエチル)- <i>N</i> {2-ホルミル-4-[1,2,2,2-テトラフルオロ-1-(トリフルオロメチル)エチル]フェニル}フタルアミド
G	2-ヨード- <i>N</i> ² (2-メシル-1,1-ジメチルエチル)-6-{4-ヒドロキシ-6-[1,2,2,2-テトラフルオロ-1-(トリフルオロメチル)エチル]-4 <i>H</i> 3,1-ベンゾオキサジン-2-イル}ベンズアミド
H	2-{{(3-ヨード-2-{{(2-メシル-1,1-ジメチルエチル)アミノ}カルボニル}フェニル)カルボニル}アミノ}-5-[1,2,2,2-テトラフルオロ-1-(トリフルオロメチル)エチル]安息香酸
M	2-メチル-4-[1,2,2,2-テトラフルオロ-1-(トリフルオロメチル)エチル]オキサニリド酸
P	3-ヨード- <i>N</i> {4-[1,2,2,2-テトラフルオロ-1-(トリフルオロメチル)エチル]- <i>o</i> -トリル}フタルイミド
R	2-[6-(<i>N</i> {2-ヒドロキシメチル-4-[1,2,2,2-テトラフルオロ-1-(トリフルオロメチル)エチル]フェニル}カルバモイル)-2-ヨードフェニルカルボニルアミノ]-3-メシル-2-メチルプロピオン酸

<別紙2：検査値等略称>

略称	名称
A/G 比	アルブミン/グロブリン比
ai	有効成分量 (active ingredient)
Alb	アルブミン
ALP	アルカリホスファターゼ
ALT	グルタミン酸ピルビン酸トランスアミナーゼ (GPT)
APTT	活性化部分トロンボプラスチン時間
AST	グルタミン酸オキサロ酢酸トランスアミナーゼ (GOT)
AUC	薬物濃度曲線下面積
CD45	白血球共通抗原
ChE	コリンエステラーゼ
C _{max}	(血液又は血漿中) 最高濃度
CMC	カルボキシメチルセルロース
FOB	機能観察総合検査
GGT	γ-グルタミルトランスフェラーゼ (γ-グルタミルトランスぺプチターゼ (γ-GTP))
Glob	グロブリン
Glu	グルコース (血糖)
Hb	ヘモグロビン (血色素量)
Ht	ヘマトクリット値
LC ₅₀	半数致死濃度 (50%致死濃度)
LD ₅₀	半数致死量 (50%致死量)
MCH	平均赤血球血色素量
MCV	平均赤血球容積
PHI	最終使用から収穫までの日数
PLT	血小板数
PT	プロトロンビン時間
RBC	赤血球数
TAR	総処理 (投与) 放射能
TBA	総胆汁酸
T.Bil	総ビリルビン
T.Chol	総コレステロール
TG	トリグリセリド
T _{max}	(血液又は血漿中) 最高濃度到達時間
TP	総蛋白質
TRR	総残留放射能
TSH	甲状腺刺激ホルモン
T _{1/2}	消失半減期
T ₃	トリヨードサイロニン
T ₄	サイロキシシン
UDPGT	ウリジン二リン酸グルクロニルトランスフェラーゼ

<別紙3：作物残留試験成績（国内）>

作物名 (分析部位) 実施年度	試験 圃場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)					
					フルベンジアミド		代謝物B		代謝物C	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
とうもろこし (乾燥子実) 2008年度	2	200WDG	2	1	<0.01	<0.01	/	/	/	/
				3	<0.01	<0.01				
				7	<0.01	<0.01				
				14	<0.01	<0.01				
とうもろこし (種子) 2008年度	2	200WDG	2	1	<0.01	<0.01	/	/	/	/
				3	<0.01	<0.01				
				7	<0.01	<0.01				
				14	<0.01	<0.01				
そば (種子) 2009年度	2	190-200WDG	2	7	3.27	2.16	/	/	/	/
				14	1.68	1.35				
				21	1.24	1.05				
だいず (乾燥子実) 2003年度	2	150-200WDG	3	7	0.089	0.051	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006
				14	0.077	0.040	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006
				21	0.068	0.035	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006
				42-44	0.080	0.018	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006
だいず (乾燥子実) 2009年度	2	153-158.4 ^{SC}	3	7	0.06	0.045	/	/	/	/
				14	0.05	0.040				
				21	0.04	0.033				
だいず (乾燥子実) 2009年度	2	90 ^{SC} (無人ヘリ による散布)	3	7	0.09	0.063	/	/	/	/
				14	0.05	0.038				
				21	0.01	0.01*				
あずき (乾燥子実) 2009年度	2	200WDG	2	7	0.04	0.025*	/	/	/	/
				14	0.03	0.020*				
				21	0.02	0.015*				
ばれいしょ (塊茎) 2007年度	2	200WDG	2	1	<0.01	<0.01	/	/	/	/
				3	<0.01	<0.01				
				7	<0.01	<0.01				
さといも (塊茎) 2007年	2	200WDG	2	1	<0.01	<0.01	/	/	/	/
				3	0.01	0.01*				
				14	<0.01	<0.01				
かんしょ (塊根) 2007年	2	300WDG	2	1	<0.01	<0.01	/	/	/	/
				3	<0.01	<0.01				
				14	<0.01	<0.01				
やまのいも (塊茎) 2007年度	2	200WDG	2	1	<0.01	<0.01	/	/	/	/
				3	<0.01	<0.01				
				14	<0.01	<0.01				
やまのいも (むかご) 2007年度	2	200WDG	2	14	0.70	0.615	/	/	/	/
だいこん (薬部) 2002年度	2	150-200WDG	2	7	3.89	2.50	0.05	0.03	<0.01	<0.01
				14	1.14	0.82	0.01	0.01*	<0.01	<0.01
				21	1.03	0.44	0.01	0.01*	<0.01	<0.01
				28	0.14	0.08*	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
だいこん (根部) 2002年度	2	150-200WDG	2	7	0.007	0.006*	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006
				14	0.007	0.006*	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006
				21	0.005	0.005*	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006
				28	<0.005	<0.005	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006

作物名 (分析部位) 実施年度	試験 圃場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)					
					フルベンジアミド		代謝物B		代謝物C	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
はつか だいこん (茎葉) 2007年度	2	100WDG	1	7 14	5.24 0.30	3.50 0.18*	/	/	/	/
はつか だいこん (根) 2007年度	2	100WDG	1	7 14	0.02 <0.01	0.02* <0.01	/	/	/	/
かぶ (葉部) 2008年度	2	200WDG	2	1 3 7 14	15.3 13.4 10.9 7.37	12.9 10.8 10.0 6.21	/	/	/	/
かぶ (根部) 2008年度	2	200WDG	2	1 3 7 14	0.06 0.06 0.04 0.03	0.033 0.04 0.023 0.023	/	/	/	/
わさび だいこん (根部) 2009年度	2	150WDG	2	14 21	0.06 0.05	0.045 0.035	/	/	/	/
はくさい (茎葉) 2002年度	2	200WDG	3	1 3 7 14 21	1.81 1.36 0.66 0.38 0.15	1.64 1.08 0.54 0.30 0.10	0.02 0.01 0.01 <0.01 <0.01	0.02 0.01* 0.01* <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01 <0.01 <0.01
はくさい (茎葉) 2007-2009年 度	2	0.4 g/箱 ^{SC} × 1 + 300WDG	4	1 3 14	1.92 2.10 0.94	1.13 1.59 0.64	/	/	/	/
キャベツ (葉球) 2002年度	2	120-200WDG	3	1 3 7 14 21	1.13 1.50 1.50 0.32 0.10	0.67 0.70 0.67 0.13 0.05*	0.01 0.02 0.01 <0.01 <0.01	0.01* 0.01* 0.01* <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01 <0.01 <0.01
キャベツ (葉球) 2003年度	2	200WDG	3	1 3 7 14 21	0.32 0.19 0.08 0.03 0.01	0.19 0.09 0.05 0.02* 0.01*	<0.01 <0.01 <0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01 <0.01 <0.01
キャベツ (葉球) 2006年度	2	0.4 g/箱 ^{SC} × 1 + 200-300WDG	3	1 3 7	0.50 0.48 0.31	0.40 0.44 0.25	/	/	/	/
キャベツ (葉球) 2007年度	2	0.4 g/箱 ^{SC} × 1 + 300WDG	4	1 3 14	0.87 0.88 0.45	0.75 0.66 0.25	/	/	/	/
芽キャベツ (脇芽) 2009年度	2	200WDG	3	1 3 7	1.24 1.23 0.72	0.76 0.78 0.42	/	/	/	/
こまつな (茎葉) 2007年度	2	200WDG	2	1 3 7 14	17.7 16.3 11.7 3.45	11.6 9.35 7.05 2.09	/	/	/	/

作物名 (分析部位) 実施年度	試験 圃場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)					
					フルベンジアミド		代謝物B		代謝物C	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
チンゲンサイ (茎葉) 2007年度	2	200WDG	2	1 3 7 14	2.24 2.90 1.89 1.42	1.43 1.78 1.35 0.88	/	/	/	/
カリフラワー (花蕾) 2007年度	2	0.4 g/箱 ^{SC} × 1 + 300WDG	3	1 3 7	0.73 0.50 0.33	0.45 1.00 0.18	/	/	/	/
ブロッコリー (花蕾) 2006年度 2007年度	2	0.4 g/箱 ^{SC} × 1 + 200-300WDG	3	1 3 6-7 14 18-20	1.65 0.92 0.58 0.07 0.03	1.07 0.51 0.33 0.03* 0.02*	/	/	/	/
なばな (茎葉部) 2008年度	2	0.4 g/セルト レイ ^{SC} ×1 + 150-208WDG	3	1 3 7 14	4.48 2.65 0.75 0.36	4.05 2.57 0.62 0.24	/	/	/	/
はなっこりー (花蕾部及び 茎) 2008年度	2	0.4 g/セルト レイ ^{SC} ×1 + 200WDG	3	1 3 7 14	1.10 0.99 0.70 0.33	1.04 0.86 0.52 0.23	/	/	/	/
みずな (茎葉) 2008年度 2009年度	4	150-200WDG	2	1 3 7 14	10.7 9.02 6.41 0.45	6.38 5.68 3.87 0.41	/	/	/	/
のざわな (茎葉) 2007年度	2	200WDG	2	1 3 7 14	2.86 2.86 2.25 2.02	2.55 2.53 1.80 1.63	/	/	/	/
レタス (茎葉) 2002年度	2	200WDG	3	1 3 7 14	0.94 0.97 0.63 0.91	0.56 0.49 0.46 0.40	0.01 0.02 0.01 0.02	0.01* 0.01* 0.01* 0.01*	<0.01 <0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01 <0.01
レタス (茎葉) 2003年度	1	200WDG	2	1 3 7 14 21	0.76 0.78 0.51 0.30 0.02	0.66 0.51 0.46 0.28 0.02*	0.01 0.01 <0.01 <0.01 <0.01	0.01* 0.01* <0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01 <0.01 <0.01
レタス (茎葉) 2007年度	2	0.4 g/箱 ^{SC} × 1 + 200WDG	3	1 3 7	5.18 6.20 5.44	2.98 3.64 2.61	/	/	/	/
リーフレタス (茎葉) 2004年度	2	200-250WDG	2	1 3 7 14 21	9.50 7.42 7.26 5.94 3.06	8.48 6.54 6.03 5.28 2.72	0.20 0.15 0.13 0.11 0.05	0.16 0.12 0.11 0.09 0.04	<0.01 <0.01 <0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01 <0.01 <0.01
サラダ菜 (茎葉) 2003年度 2004年度	2	80-150WDG	2	1 3 7 14	7.17 5.96 4.73 0.65	5.45 4.66 3.70 0.55	0.11 0.10 0.08 0.01	0.09 0.07 0.06 0.01*	<0.01 <0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01 <0.01

作物名 (分析部位) 実施年度	試験 圃場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)					
					フルベンジアミド		代謝物B		代謝物C	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
ねぎ (茎葉) 2002年度	2	200WDG	3	7	1.13	0.96	0.01	0.01*	<0.01	<0.01
				14	1.01	0.65	0.01	0.01*	<0.01	<0.01
				21	0.72	0.37	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				28	0.25	0.15	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
アスパラガス (若茎) 2007年度	2	300WDG	2	1	0.47	0.37	/	/	/	/
				3	0.05	0.04	/	/	/	/
				7	0.03	0.02*	/	/	/	/
				14	<0.01	<0.01	/	/	/	/
にんじん (根部) 2009年度	2	300WDG	2	1	0.06	0.035*	/	/	/	/
				3	0.04	0.025*	/	/	/	/
				7	0.03	0.020*	/	/	/	/
トマト (果実) 2003年度	2	200-300WDG	2	1	0.25	0.178	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				3	0.24	0.158	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				7	0.21	0.148	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
トマト (果実) 2007年度	2	50 g/400 m ³ くん煙	2	1	0.07	0.048	/	/	/	/
				3	0.07	0.038	/	/	/	/
				7	0.06	0.038	/	/	/	/
				14	0.05	0.033	/	/	/	/
ミニトマト (果実) 2007年度	2	300WDG	2	1	0.41	0.35	/	/	/	/
				3	0.45	0.33	/	/	/	/
				7	0.36	0.32	/	/	/	/
				14	0.29	0.25	/	/	/	/
ピーマン (果実) 2002年度	2	200-250WDG	2	1	1.16	0.71	0.01	0.01*	<0.01	<0.01
				3	0.69	0.51	0.01	0.01*	<0.01	<0.01
				7	0.32	0.26	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
ピーマン (果実) 2008年度	2	50 g/400 m ³ くん煙	2	1	0.25	0.138	/	/	/	/
				7	0.07	0.060	/	/	/	/
				14	0.03	0.023	/	/	/	/
なす (果実) 2006年度	2	200-250WDG	3	1	0.40	0.28	/	/	/	/
				3	0.27	0.20	/	/	/	/
				7	0.12	0.06	/	/	/	/
なす (果実) 2008年度	2	50 g/400 m ³ くん煙	3	1	0.06	0.048	/	/	/	/
				7	0.03	0.023	/	/	/	/
				14	<0.01	<0.01	/	/	/	/
ししとう (果実) 2009年度	2	250-300WDG	2	1	2.09	1.76	/	/	/	/
				3	1.36	1.15	/	/	/	/
				7	0.66	0.54	/	/	/	/
甘長とうがらし (果実) 2009年度	2	211-263WDG	2	1	1.44	1.17	/	/	/	/
				3	0.90	0.78	/	/	/	/
				7	0.47	0.37	/	/	/	/
きゅうり (果実) 2006年度	2	300WDG	3	1	0.22	0.15	/	/	/	/
				3	0.14	0.09	/	/	/	/
				7	0.05	0.03	/	/	/	/
きゅうり (果実) 2008年度	2	50 g/400 m ³ 、77.3 g/618 m ³ くん煙	3	1	0.04	0.02*	/	/	/	/
				3	0.04	0.023*	/	/	/	/
				7	0.02	0.015*	/	/	/	/
すいか (果皮を除く果 実) 2007年度	2	300WDG	2	1	<0.01	<0.01	/	/	/	/
				3	<0.01	<0.01	/	/	/	/
				7	<0.01	<0.01	/	/	/	/

作物名 (分析部位) 実施年度	試験 圃場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)					
					フルベンジアミド		代謝物B		代謝物C	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
メロン (果実) 2009年度	2	275-281 ^{WDG}	2	1 3 7	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01				
にがうり (果実) 2008年度 2009年度	2	300 ^{WDG}	3	1 3 7	0.90 0.45 0.11	0.51 0.40 0.09				
オクラ (果実) 2009年度	2	250-299 ^{WDG}	2	1 3 7	0.98 0.55 0.11	0.66 0.34 0.08				
しょうが (根茎) 2009年度	2	200 ^{WDG}	2	1 3 7	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01				
さやえんどう (さや) 2008年度	2	0.4 g/セルト レイ ^{SC} ×1 + 200 ^{WDG}	3	1 3 7 14	0.59 0.57 0.42 0.15	0.50 0.51 0.31 0.13				
さやいんげん (さや) 2007年度	2	0.4 g/箱 ^{SC} × 1 + 200 ^{WDG}	3	1 3 7	1.37 1.32 0.75	0.80 0.73 0.58				
えだまめ (さや) 2007年度	2	0.4 g/箱 ^{SC} × 1 + 200 ^{WDG}	3	1 3 7	1.68 1.60 1.00	1.05 1.04 0.75				
えだまめ (さや) 2009年度	2	171-180 ^{SC}	3	1 3 14	2.13 2.08 1.87	1.45 1.36 1.11				
えだまめ (さや) 2010年度	2	160-196.6 ^{WDG}	3	1 3 7	1.56 1.50 1.14	1.35 1.08 0.815				
ヤングコーン (可食部) 2008年度	2	200 ^{WDG}	2	1 3 7 14	<0.01 <0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01 <0.01				
しよくようほ うずき (果実) 2010年度	2	200 ^{WDG}	2	1 3 7	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01				
しそ (薬) 2008年度	2	200-300 ^{WDG}	2	3 ^a 7 ^a 14	35.9 19.9 3.19	27.2 14.2 2.50				
みょうが (花穂) 2008年度 2009年度	2	300 ^{WDG}	2	1 3 7	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01				
温州みかん (果肉) 2008年度	2	350 ^{WDG}	2	1 3 14	0.03 0.03 0.03	0.020* 0.018* 0.015*				

作物名 (分析部位) 実施年度	試験 圃場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)					
					フルベンジアミド		代謝物B		代謝物C	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
温州みかん (果皮) 2008年度	2	350WDG	2	1	3.17	2.69				
				3	3.12	2.61				
				14	3.12	2.64				
なつみかん (果実) 2008年度	2	250WDG	2	1	0.15	0.12				
				3	0.18	0.14				
				14	0.14	0.12				
なつみかん (果実) 2010年度	2	300-303 ^{SC}	2	1	1.27	0.75				
				3	1.22	0.71				
				7	0.89	0.60				
				14	0.75	0.47				
かぼす (果実) 2008年度	1	308WDG	2	1	0.17	0.17				
				3	0.22	0.22				
				14	0.10	0.10				
すだち (果実) 2008年度	1	250WDG	2	1	0.56	0.55				
				3	0.34	0.34				
				14	0.29	0.28				
りんご (果実) 2002年度	2	200-250WDG	2	7	0.410	0.220	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006
				14	0.312	0.190	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006
				21	0.287	0.198	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006
				45-49	0.185	0.080*	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006
りんご (果実) 2005年度	2	250WDG	2	1	0.38	0.35				
				3	0.41	0.32				
				7	0.36	0.29				
りんご (果実) 2009年度	2	203-225 ^{SC}	2	1	0.36	0.278				
				3	0.29	0.220				
				7	0.28	0.220				
りんご (果実) 2009年度	4	180-225 ^{SC}	2	1	0.35	0.205				
日本なし (果実) 2002年度	2	150-200WDG	2	7	0.250	0.222	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006
				14	0.199	0.183	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006
				21	0.163	0.141	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006
				28	0.155	0.121	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006
日本なし (果実) 2006年度	1	300WDG	2	1	0.32	0.30				
				3	0.29	0.26				
				7	0.31	0.26				
西洋なし (果実) 2006年度	1	300WDG	2	1	0.29	0.23				
				3	0.26	0.24				
				7	0.13	0.13				
日本なし (果実) 2009年度	2	180 ^{SC}	2	1	0.21	0.168				
				3	0.18	0.160				
				7	0.17	0.128				
				14	0.15	0.115				
日本なし (果実) 2009年度	2	182.7-225 ^{SC}	2	1	0.17	0.15				
もも (果肉) 2003年度	2	200-250WDG	2	1	0.012	0.007	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006
				3	<0.005	<0.005	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006
				7	<0.005	<0.005	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006
				14	<0.005	<0.005	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006

作物名 (分析部位) 実施年度	試験 圃場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)					
					フルベンジアミド		代謝物B		代謝物C	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
もも (果皮) 2003年度	2	200・250WDG	2	1	5.25	3.70	0.01*	0.008*	<0.01	<0.008
				3	3.11	2.61	<0.01	<0.008	<0.01	<0.008
				7	3.34	1.79	<0.01	<0.008	<0.01	<0.008
				14	2.12	1.56	<0.01	<0.008	<0.01	<0.008
もも (果肉) 2009年度	2	360 ^{SC} ×1 樹幹散布 + 150・200 ^{SC}	3	1	<0.01	<0.01	/	/	/	/
				3	<0.01	<0.01	/	/	/	/
				7	<0.01	<0.01	/	/	/	/
もも (果皮) 2009年度	2	360 ^{SC} ×1 樹幹散布 + 150・200 ^{SC}	3	1	2.91	2.02	/	/	/	/
				3	2.81	2.22	/	/	/	/
				7	2.23	1.74	/	/	/	/
ネクタリン (果実) 2006年度	2	200・250WDG	2	1	0.43	0.35	/	/	/	/
				3	0.38	0.26	/	/	/	/
				7	0.48	0.31	/	/	/	/
				14	0.27	0.19	/	/	/	/
ネクタリン (果実) 2009年度	2	360 ^{SC} ×1 樹幹散布 + 180・200 ^{SC}	3	1	0.43	0.29	/	/	/	/
				3	0.47	0.31	/	/	/	/
				14	0.30	0.195	/	/	/	/
すもも (果実) 2007年度	2	400 WDG	2	1	0.85	0.50	/	/	/	/
				3	0.39	0.31	/	/	/	/
				7	0.68	0.36	/	/	/	/
				14	0.57	0.27	/	/	/	/
すもも (果実) 2010年度	2	351・360 ^{SC} × 1 樹幹散布 + 180・195 ^{SC}	3	1	0.03	0.025	/	/	/	/
				3	0.03	0.020	/	/	/	/
				7	0.02	0.015*	/	/	/	/
うめ (果実) 2007年度	2	400 WDG	2	3	1.40	1.10	/	/	/	/
				7	1.37	1.02	/	/	/	/
				14	0.88	0.71	/	/	/	/
うめ (果実) 2010年度	2	360 ^{SC} ×1 樹幹散布 + 152・200 ^{SC}	3	1	1.00	0.81	/	/	/	/
				3	0.98	0.74	/	/	/	/
				7	0.62	0.58	/	/	/	/
おうとう (果実) 2006年度	2	250・300 WDG	2	1	0.57	0.48	/	/	/	/
				3	0.43	0.43	/	/	/	/
				7	0.43	0.42	/	/	/	/
				14	0.44	0.38	/	/	/	/
おうとう (果実) 2009年度	2	360 ^{SC} ×1 樹幹散布 + 200 ^{SC}	3	1	0.49	0.29	/	/	/	/
				3	0.58	0.34	/	/	/	/
				14	0.44	0.25	/	/	/	/
おうとう (果実) 2009年度	2	360 ^{SC} ×1 樹幹散布 + 210・225 ^{SC}	3	1	1.21	0.76	/	/	/	/
				3	1.21	0.76	/	/	/	/
いちご (果実) 2003年度	2	200 WDG	2	1	0.83	0.588	<0.01	<0.008	<0.01	<0.008
				3	0.62	0.400	<0.01	<0.008	<0.01	<0.008
				7	0.49	0.288	<0.01	<0.008	<0.01	<0.008

作物名 (分析部位) 実施年度	試験 圃場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)					
					フルベンジアミド		代謝物B		代謝物C	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
いちご (果実) 2006年度	2	50 g/400 m ³ くん煙	2	1	0.20	0.15				
				3	0.19	0.16				
				7	0.13	0.09				
				14	0.06	0.05				
ぶどう (果実) 2006年度	2	250-350 WDG	2	14	0.83	0.63				
				21	0.72	0.44				
ぶどう (果実) 2009年度	2	135 ^{SC}	2	14	1.12	0.57				
				21	1.03	0.63				
				28	0.94	0.56				
ぶどう (果実) 2009年度	2	135 ^{SC}	2	14	0.37	0.33				
かき (果実) 2006年 2007年	2	200-250 WDG	2	7	0.07	0.06				
かき (果実) 2009年度	2	360 ^{SC} ×1 樹幹散布 + 200 ^{SC}	3	7	0.29	0.21				
				14	0.23	0.15				
				21	0.12	0.09				
キウイフルー ツ (果実) 2010年度	2	160-188 ^{SC}	3	7	<0.01	<0.01				
				14	<0.01	<0.01				
				21	<0.01	<0.01				
茶 (荒茶) 2003年度	2	200 WDG	1	7	29.0	16.1	0.10	0.07*	<0.006	<0.006
				10	21.4	14.1	0.06	0.06*	<0.006	<0.006
				14	16.0	10.0	<0.06	<0.06	<0.006	<0.006
				21	2.88	2.19	<0.06	<0.06	<0.006	<0.006
茶 (浸出液) 2003年度	2	200 WDG	1	7	3.38	1.893	<0.031	<0.031	<0.030	<0.030
				10	2.44	1.582	<0.031	<0.031	<0.030	<0.030
				14	1.98	1.185	<0.031	<0.031	<0.030	<0.030
				21	0.288	0.271	<0.031	<0.031	<0.030	<0.030
茶 (荒茶) 2009年度	2	360 ^{SC}	1	7	32.7	24.7				
				14	12.7	8.7				
				21	3.7	2.2				
茶 (荒茶) 2009年度	4	360 ^{SC}	1	7	34.9	21.2				

注) ・散布には、SC：フロアブル剤、WDG：顆粒水和剤を使用した。

- ・一部に定量限界未満を含むデータの平均を計算する場合は定量限界値を検出したものとして計算し、*印を付した。
- ・全てのデータが定量限界未満の場合は定量限界値の平均に<を付して記載した。
- ・農薬の使用時期 (PHI) が登録又は申請された使用方法から逸脱している場合は、PHI に a を付した。

<別紙4：作物残留試験成績（海外）>

作物名 (分析部位) 実施年度	試験 圃場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)					
					フルベンジアミド		代謝物B		合計	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
とうもろこし (子実+穂軸) 2004年度	1	107-109 ^{SC}	4	1	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010
	1	105-108 ^{SC}	4	1	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010
	1	104-106 ^{SC}	4	1	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010
	1	104-108 ^{SC}	4	2	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010
	1	106-107 ^{SC}	4	1	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010
	1	105 ^{SC}	4	1	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010
	1	106-113 ^{SC}	4	1	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010
	1	105-108 ^{SC}	4	1	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010
	1	105-108 ^{SC}	4	1	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010
	1	104-111 ^{SC}	4	1	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010
とうもろこし (子実+穂軸) 2005年度	1	105-106 ^{SC}	4	1	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010
	1	105-109 ^{SC}	4	1	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	0.012	<0.010
				3	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010
				7	0.011	<0.010	<0.010	<0.010	0.014	0.010
10	0.011	<0.010	<0.010	<0.010	0.013	0.012				
ブロッコリー (花蕾) 2004年度	1	33-34 ^{WDG}	3	1	0.23	0.22	<0.01	<0.01	0.23	0.22
	1	34 ^{WDG}	3	1	0.16	0.16	0.01	<0.01	0.17	0.16
	1	33-34 ^{WDG}	3	1	0.12	0.09	<0.010	<0.010	0.12	0.11
				3	0.12	0.11	<0.010	<0.010	0.12	0.11
				7	0.12	0.11	<0.010	<0.010	0.12	0.11
10	0.07	0.06	<0.010	<0.010	0.07	0.06				
カリフラワー (花蕾) 2004年度	1	33-34 ^{WDG}	3	1	0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.01	<0.01
	1	33-35 ^{WDG}	3	1	0.02	0.01	<0.01	<0.01	0.02	0.02
	1	34-36 ^{WDG}	3	1	0.03	0.02	<0.01	<0.01	0.03	0.03
キャベツ (葉球) 2004年度	1	35 ^{WDG}	3	1	0.18	0.16	<0.01	<0.01	0.18	0.16
	1	33-34 ^{WDG}	3	1	0.25	0.22	<0.01	<0.01	0.25	0.23
	1	34 ^{WDG}	3	1	0.39	0.30	0.02	0.02	0.39	0.30
	1	34 ^{WDG}	3	1	0.12	0.10	<0.01	<0.01	0.12	0.11
	1	33-34 ^{WDG}	3	1	0.25	0.24	<0.01	<0.01	0.25	0.24
				3	0.30	0.24	<0.01	<0.01	0.31	0.24
7				0.02	0.01	<0.01	<0.01	0.02	0.01	
10	0.03	0.02	<0.01	<0.01	0.03	0.02				
結球レタス (茎葉) 2004年度	1	51-53 ^{WDG}	5	1	0.12	0.11	<0.01	<0.01	0.12	0.11
	1	50-51 ^{WDG}	5	1	1.20	0.69	<0.01	<0.01	1.16	0.69
	1	50 ^{WDG}	5	1	0.71	0.66	<0.01	<0.01	0.71	0.66
	1	50-51 ^{WDG}	5	1	0.67	0.66	<0.01	<0.01	0.67	0.66
	1	51-52 ^{WDG}	5	1	0.97	0.97	<0.01	<0.01	0.98	0.97
	1	53 ^{WDG}	5	1	0.47	0.36	<0.01	<0.01	0.48	0.37
				3	0.43	0.34	<0.01	<0.01	0.43	0.34
7				0.31	0.28	<0.01	<0.01	0.31	0.28	
10				0.21	0.16	<0.01	<0.01	0.21	0.17	
リーフレタス (茎葉) 2004年度	1	48-53 ^{WDG}	5	1	0.34	0.32	<0.01	<0.01	0.35	0.32
				3	1.03	0.96	<0.01	<0.01	1.03	0.98
				7	0.15	0.10	<0.01	<0.01	0.15	0.11
				10	0.12	0.08	<0.01	<0.01	0.09	0.05
	1	49-51 ^{WDG}	5	1	5.89	4.58	0.02	0.01	5.90	4.59
	1	49-51 ^{WDG}	5	1	1.27	1.07	0.01	<0.01	1.28	1.08
1	50-51 ^{WDG}	5	1	1.14	1.00	<0.01	<0.01	1.15	1.00	
1	50-51 ^{WDG}	5	1	1.63	1.60	<0.01	<0.01	1.63	1.61	
1	50-51 ^{WDG}	5	1	4.79	3.30	0.02	0.01	4.80	3.38	

作物名 (分析部位) 実施年度	試験 圃場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)					
					フルベンジアミド		代謝物B		合計	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
セロリ (茎葉) 2004年度	1	50-51 WDG	5	1	1.20	0.91	<0.01	<0.01	1.21	0.92
				3	0.65	0.54	<0.01	<0.01	0.65	0.54
				7	0.91	0.79	0.01	0.01	0.92	0.80
				10	0.95	0.86	<0.01	<0.01	0.95	0.87
	1	49-51 WDG	5	1	0.81	0.70	<0.01	<0.01	0.81	0.70
	1	50-52 WDG	5	1	2.31	1.95	<0.01	<0.01	2.31	1.95
ほうれんそう (茎葉) 2004年度	1	49-52 WDG	5	1	4.93	4.46	<0.01	<0.01	4.93	4.46
				3	3.97	3.66	<0.01	<0.01	3.97	3.66
				7	2.91	2.76	<0.01	<0.01	2.92	2.76
				10	1.62	1.40	<0.01	<0.01	1.62	1.39
	1	51 WDG	5	1	3.74	3.60	<0.01	<0.01	3.75	3.62
	1	51-52 WDG	5	1	6.72	6.34	0.02	0.02	6.73	6.36
きゅうり (果実) 2004年度	1	53-64 WDG	5	1	0.031	0.025	<0.010	<0.010	0.031	0.026
				3	0.032	0.020	<0.010	<0.010	0.033	0.021
				7	0.012	0.010	<0.010	<0.010	0.012	0.010
				10	0.013	0.012	<0.010	<0.010	0.014	0.013
	1	52-53 WDG	5	1	0.012	<0.010	<0.010	<0.010	0.012	<0.010
	1	53-54 WDG	5	1	0.025	0.024	<0.010	<0.010	0.026	0.025
メロン (果実) 2004年度	1	53 WDG	5	1	0.016	0.012	<0.010	<0.010	0.019	0.015
				3	0.012	0.012	<0.010	<0.010	0.014	0.014
				7	0.011	<0.010	<0.010	<0.010	0.013	0.011
				10	0.010	<0.010	<0.010	<0.010	0.013	0.010
	1	55-61 WDG	5	1	0.035	0.028	<0.010	<0.010	0.038	0.030
	1	52 WDG	5	1	0.093	0.090	<0.010	<0.010	0.096	0.094
メロン (果肉) 2004年度	1	53 WDG	5	1	0.034	0.020	<0.010	<0.010	0.036	0.023
				3	0.047	0.040	<0.010	<0.010	0.049	0.043
				7	0.066	0.054	<0.010	<0.010	0.067	0.057
				10	0.064	0.052	<0.010	<0.010	0.066	0.054
	1	52-53 WDG	5	1	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010
	1	55-61 WDG	5	1	0.035	0.028	<0.010	<0.010	0.038	0.030
かぼちゃ (果実) 2004年度	1	53 WDG	5	1	0.013	<0.010	<0.010	<0.010	0.014	0.011
				3	0.012	0.010	<0.010	<0.010	0.014	0.013
				7	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010
				10	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010
	1	51-53 WDG	5	1	0.015	0.012	<0.010	<0.010	0.017	0.014
	1	50-64 WDG	5	1	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	0.011	<0.010
おうとう (果実) 2004年度	1	141-142 SC	3	3	0.949	0.846	<0.010	<0.010	0.950	0.848
				7	0.966	0.980	<0.010	<0.010	0.997	0.982
				10	0.730	0.656	<0.010	<0.010	0.732	0.658
				14	0.810	0.626	<0.010	<0.010	0.812	0.628
	1	139-142 SC	3	7	1.003	0.992	<0.010	<0.010	1.01	0.996
	1	140-141 SC	3	7	0.576	0.526	<0.010	<0.010	0.578	0.527

作物名 (分析部位) 実施年度	試験 圃場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)					
					フルベンジアミド		代謝物B		合計	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
	1	140-141 ^{SC}	3	7	0.601	0.596	<0.010	<0.010	0.603	0.598
	1	138-140 ^{SC}	3	7	0.894	0.863	<0.010	<0.010	0.896	0.865
	1	141-143 ^{SC}	3	7	0.989	0.981	<0.010	<0.010	0.991	0.983
	1	140-143 ^{SC}	3	7	0.529	0.496	<0.010	<0.010	0.531	0.498
	1	134-142 ^{SC}	3	7	0.633	0.582	<0.010	<0.010	0.635	0.584
	1	137-142 ^{SC}	3	7	0.161	0.158	<0.010	<0.010	0.163	0.160
	1	138-145 ^{SC}	3	7	0.250	0.242	<0.010	<0.010	0.252	0.244
	1	140-141 ^{SC}	3	7	0.198	0.170	<0.010	<0.010	0.200	0.172
	1	140-141 ^{SC}	3	7	0.566	0.522	<0.010	<0.010	0.567	0.525
	もも (果実) 2004年度	1	138-140 ^{SC}	3	3 7 10 14	0.248 0.200 0.172 0.202	0.194 0.174 0.141 0.150	<0.010 <0.010 <0.010 <0.010	<0.010 <0.010 <0.010 <0.010	0.249 0.201 0.173 0.203
1		141-142 ^{SC}	3	7	0.200	0.154	<0.010	<0.010	0.201	0.156
1		140-142 ^{SC}	3	7	0.241	0.216	<0.010	<0.010	0.242	0.218
1		141-142 ^{SC}	3	7	0.230	0.215	<0.010	<0.010	0.231	0.216
1		140 ^{SC}	3	7	0.199	0.194	<0.010	<0.010	0.200	0.196
1		140 ^{SC}	3	7	0.199	0.187	<0.010	<0.010	0.201	0.188
1		140-141 ^{SC}	3	7	0.202	0.196	<0.010	<0.010	0.203	0.198
1		140-144 ^{SC}	3	7	0.165	0.164	<0.010	<0.010	0.166	0.166
1		139-141 ^{SC}	3	7	0.302	0.278	<0.010	<0.010	0.303	0.280
1		138-141 ^{SC}	3	7	0.200	0.198	<0.010	<0.010	0.202	0.199
1		139-142 ^{SC}	3	7	0.153	0.138	<0.010	<0.010	0.154	0.139
1		139-140 ^{SC}	3	7	0.221	0.186	<0.010	<0.010	0.222	0.187
1		140-142 ^{SC}	3	7	0.319	0.296	<0.010	<0.010	0.320	0.297
1		140-142 ^{SC}	3	7	0.319	0.296	<0.010	<0.010	0.320	0.297
1		139-142 ^{SC}	3	7	0.345	0.305	<0.010	<0.010	0.346	0.306
1		139-142 ^{SC}	3	7	0.281	0.278	<0.010	<0.010	0.282	0.280
1		138-140 ^{SC}	3	7	0.394	0.334	<0.010	<0.010	0.395	0.336
1	140-141 ^{SC}	3	7	0.260	0.214	<0.010	<0.010	0.261	0.216	
1	138-140 ^{SC}	3	7	0.397	0.383	<0.010	<0.010	0.438	0.381	
プラム (果実) 2004年度	1	140 ^{SC}	3	3 7 10 14	0.045 0.017 0.020 0.013	0.032 0.016 0.017 0.010	<0.010 <0.010 <0.010 <0.010	<0.010 <0.010 <0.010 <0.010	0.046 0.018 0.021 0.014	0.033 0.018 0.019 0.012
	1	139 ^{SC}	3	7	0.437	0.380	<0.010	<0.010	0.438	0.381
	1	139-140 ^{SC}	3	7	0.501	0.488	<0.010	<0.010	0.502	0.490
	1	138 ^{SC}	3	7	0.030	0.028	<0.010	<0.010	0.031	0.030
	1	138-144 ^{SC}	3	7	0.032	0.027	<0.010	<0.010	0.033	0.028
	1	139-143 ^{SC}	3	7	0.053	0.048	<0.010	<0.010	0.054	0.050
	1	139-141 ^{SC}	3	7	0.036	0.034	<0.010	<0.010	0.037	0.036
	1	141 ^{SC}	3	7	0.144	0.126	<0.010	<0.010	0.145	0.128
	1	137-140 ^{SC}	3	7	0.016	0.014	<0.010	<0.010	0.017	0.015
	1	141-142 ^{SC}	3	7	0.013	0.012	<0.010	<0.010	0.014	0.014
	1	138-143 ^{SC}	3	7	0.091	0.086	<0.010	<0.010	0.092	0.088
1	139-142 ^{SC}	3	7	0.070	0.060	<0.010	<0.010	0.072	0.061	
綿実 (子実) 2004年度	1	105-107 ^{SC}	3	10 22 26 35	0.41 0.21 0.18 0.13	0.32 0.16 0.14 0.10	<0.01 <0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01 <0.01	0.41 0.22 0.18 0.13	0.32 0.17 0.14 0.10
	1	104-105 ^{SC}	3	26	0.19	0.11	<0.01	<0.01	0.19	0.18
	1	104-107 ^{SC}	3	28	0.03	0.02	<0.01	<0.01	0.04	0.02
	1	104-105 ^{SC}	3	26	0.37	0.32	<0.01	<0.01	0.38	0.32

作物名 (分析部位) 実施年度	試験 圃場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)					
					フルベンジアミド		代謝物B		合計	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
	1	103-107 ^{SC}	3	28	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	1	107-108 ^{SC}	3	27	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.02	0.02
	1	104-105 ^{SC}	3	28	0.25	0.25	<0.01	<0.01	0.26	0.25
	1	104-105 ^{SC}	3	28	0.12	0.12	<0.01	<0.01	0.12	0.12
	1	104-107 ^{SC}	3	28	0.28	0.20	<0.01	<0.01	0.28	0.20
綿実 (子実) 2005年度	1	105 ^{SC}	3	28	0.11	0.10	<0.01	<0.01	0.11	0.10
	1	104-106 ^{SC}	3	27	1.00	0.88	<0.01	<0.01	1.00	0.89
	1	104-105 ^{SC}	3	28	0.12	0.10	<0.01	<0.01	0.12	0.10
アーモンド (果実) 2004年度	1	140 ^{SC}	3	7	0.050	0.050	<0.010	<0.010	0.052	0.052
				14	0.031	0.022	<0.010	<0.010	0.033	0.024
				21	0.044	0.042	<0.010	<0.010	0.046	0.044
				28	0.043	0.040	<0.010	<0.010	0.045	0.043
	1	138-139 ^{SC}	3	14	0.055	0.048	<0.010	<0.010	0.057	0.050
	1	139-140 ^{SC}	3	14	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010
	1	139-140 ^{SC}	3	14	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	0.010	<0.010
	1	139-142 ^{SC}	3	14	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010
	1	140-142 ^{SC}	3	14	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010
	1	140-141 ^{SC}	3	14	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010
	1	140-141 ^{SC}	3	14	0.022	0.020	<0.010	<0.010	0.024	0.022
	1	138-141 ^{SC}	3	14	0.017	0.012	<0.010	<0.010	0.024	0.022
	1	138-141 ^{SC}	3	14	0.023	0.020	<0.010	<0.010	0.025	0.023
	1	138-139 ^{SC}	3	14	0.055	0.048	<0.010	<0.010	0.057	0.050
	1	140 ^{SC}	3	7	0.050	0.050	<0.010	<0.010	0.052	0.052
	1		3	14	0.031	0.022	<0.010	<0.010	0.033	0.024
	1		3	21	0.044	0.042	<0.010	<0.010	0.046	0.044
	1		3	28	0.043	0.040	<0.010	<0.010	0.045	0.043
	1	139-140 ^{SC}	3	14	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010
	1	139-140 ^{SC}	3	14	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010
1	139-142 ^{SC}	3	14	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	
1	140-142 ^{SC}	3	14	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	
1	140-141 ^{SC}	3	14	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	
1	140-141 ^{SC}	3	14	0.022	0.020	<0.010	<0.010	0.024	0.022	
1	138-141 ^{SC}	3	14	0.017	0.012	<0.010	<0.010	0.019	0.014	
1	138-141 ^{SC}	3	14	0.023	0.020	<0.010	<0.010	0.025	0.023	
ペカン (果実) 2004年度	1	136-137 ^{SC}	3	7	0.012	0.011	<0.010	<0.010	0.014	0.013
				14	0.012	<0.010	<0.010	<0.010	0.013	<0.010
				21	0.012	<0.010	<0.010	<0.010	0.013	0.010
				28	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010
	1	139-145 ^{SC}	3	13	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010
	1	140-143 ^{SC}	3	13	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010
	1	142-143 ^{SC}	3	13	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010
	1	136-186 ^{SC}	3	13	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010
	1	135-140 ^{SC}	3	14	0.012	<0.010	<0.010	<0.010	0.013	<0.010
	1	139-141 ^{SC}	3	14	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010
	1	141 ^{SC}	3	14	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010
	1	139-140 ^{SC}	3	12	0.028	0.024	<0.010	<0.010	0.029	0.026
	1	138-139 ^{SC}	3	12	0.018	0.016	<0.010	<0.010	0.019	0.018
	1	139-145 ^{SC}	3	13	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010
1	140-143 ^{SC}	3	13	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	
1	142-143 ^{SC}	3	13	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	
1	136-186 ^{SC}	3	13	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	

作物名 (分析部位) 実施年度	試験 圃場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)					
					フルベンジアミド		代謝物B		合計	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
	1	136-137 ^{SC}	3	7	0.012	0.011	<0.010	<0.010	0.014	0.013
	1		3	14	0.012	<0.010	<0.010	<0.010	0.013	<0.010
	1		3	21	0.012	<0.010	<0.010	<0.010	0.013	0.010
	1		3	28	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010
	1	135-140 ^{SC}	3	14	0.012	<0.010	<0.010	<0.010	0.013	<0.010
	1	139-141 ^{SC}	3	14	<0.010	<0.010	<0.01	<0.01	<0.010	<0.010
	1	141 ^{SC}	3	14	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010	<0.010
	1	139-140 ^{SC}	3	12	0.028	0.024	<0.01	<0.01	0.029	0.026
	1	138-139 ^{SC}	3	12	0.018	0.016	<0.010	<0.010	0.019	0.018
マスタード グリーン (茎葉) 2004年度	1	33-35 ^{WDG}	3	1	2.15	2.13	0.03	0.03	2.19	2.16
			3	3	1.81	1.80	0.04	0.04	1.85	1.83
			7	1.52	1.34	0.04	0.04	1.56	1.38	
			9	0.21	0.16	<0.01	<0.01	1.61	1.36	
	1	34 ^{WDG}	3	1	2.16	2.12	<0.01	<0.01	2.17	2.13
	1	34 ^{WDG}	3	1	1.54	1.53	<0.01	<0.01	1.55	1.54
	1	34-35 ^{WDG}	3	1	3.01	2.75	<0.01	<0.01	3.02	2.76
	1	33 ^{WDG}	3	1	0.76	0.72	<0.01	<0.01	0.77	0.72
1	34 ^{WDG}	3	1	3.15	2.82	0.02	0.01	3.16	2.83	
1	34 ^{WDG}	3	1	1.51	1.32	<0.01	<0.01	1.51	1.33	
1	33-34 ^{WDG}	3	1	1.30	1.28	<0.01	<0.01	1.30	1.28	

注) ・散布には、SC：フロアブル剤、WDG：顆粒水和剤が用いられた。
 ・全てのデータが定量限界未満の場合は定量限界値の平均に<を付して記載した。

<別紙 5 : 後作物残留試験成績>

前作			作物名 実施年	試験 圃場 数	PHI (日)	残留値(mg/kg)					
作物名 実施年	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)				フルベンジアミド		代謝物B		代謝物C	
						最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
キャベツ 2003年度	600	3	だいこん (葉部) 2003年度	1	111	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			だいこん (根部) 2003年度	1	111	<0.005	<0.005	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006
			レタス (茎葉) 2003年度	1	76	<0.005	<0.005	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006

注) 散布には顆粒水和剤を使用した。

<別紙 6 : 推定摂取量>

作物名	残留値 (mg/kg)	国民平均 (体重:53.3 kg)		小児 (1~6歳) (体重:15.8 kg)		妊婦 (体重:55.6 kg)		高齢者 (65歳以上) (体重:54.2 kg)	
		ff (g/人日)	摂取量 (μg/人日)	ff (g/人日)	摂取量 (μg/人日)	ff (g/人日)	摂取量 (μg/人日)	ff (g/人日)	摂取量(μg/ 人日)
そば	2.16	3.7	7.99	0.8	1.73	1.4	3.02	4.8	10.4
大豆	0.063	56.1	3.53	33.7	2.12	45.5	2.87	58.8	3.70
あずき	0.025	1.4	0.04	0.5	0.01	0.1	0.00	2.7	0.07
さといも	0.01	11.6	0.12	5.7	0.06	7.9	0.08	17.3	0.17
だいこん (葉)	3.50	2.2	7.70	0.5	1.75	0.9	3.15	3.4	11.9
だいこん (根)	0.02	45.0	0.90	18.7	0.38	28.7	0.58	58.5	1.18
かぶ (葉)	12.9	0.5	6.45	0.1	1.29	0.3	3.87	1.1	14.2
かぶ (根)	0.04	2.6	0.10	0.7	0.03	0.7	0.03	4.2	0.17
西洋ワサビ	0.045	0.1	0.00	0.1	0.00	0.1	0.00	0.1	0.00
はくさい	1.64	29.4	48.2	10.3	16.9	21.9	35.9	31.7	52.0
キャベツ	0.78	22.8	17.8	9.8	7.64	22.9	17.9	19.9	15.5
こまつな	11.6	4.3	49.9	2	23.2	1.6	18.6	5.9	68.4
きょうな	6.38	0.3	1.91	0.1	0.64	0.1	0.64	0.3	1.91
チンゲンサイ	1.78	1.4	2.49	0.3	0.53	1	1.78	1.9	3.38
カリフラワー	1	0.4	0.40	0.1	0.10	0.1	0.10	0.4	0.40
ブロッコリー	1.07	4.5	4.82	2.8	3.00	4.7	5.03	4.1	4.39
その他のアブラ ナ科野菜	4.05	2.1	8.51	0.3	1.22	0.2	0.81	3.1	12.56
レタス	8.48	6.1	51.7	2.5	21.2	6.4	54.3	4.2	35.6
ねぎ	0.96	11.3	10.9	4.5	4.32	8.2	7.87	13.5	13.0
アスパラガス	0.37	0.9	0.33	0.3	0.11	0.4	0.15	0.7	0.26
にんじん	0.035	24.6	0.86	16.3	0.57	25.1	0.88	22.3	0.78
トマト	0.35	24.3	4.37	16.9	3.04	24.5	4.41	18.9	3.40
ピーマン	0.71	4.4	3.12	2.0	1.42	1.9	1.35	3.7	2.63
ナス	0.28	4.0	1.12	0.9	0.25	3.3	0.92	5.7	1.60
その他のなす科 野菜	1.76	0.2	0.35	0.1	0.18	0.1	0.18	0.3	0.53
きゅうり	0.15	16.3	2.45	8.2	1.23	10.1	1.52	16.6	2.49
その他のうり科 野菜	0.51	0.5	0.26	0.1	0.05	2.3	1.17	0.7	0.36
おくら	0.66	0.3	0.20	0.2	0.13	0.2	0.13	0.3	0.20
未成熟えんどう	0.51	0.6	0.31	0.2	0.10	0.7	0.36	0.6	0.31
未成熟いんげん	0.8	1.9	1.52	1.2	0.96	1.8	1.44	1.8	1.44

作物名	残留値 (mg/kg)	国民平均 (体重:53.3 kg)		小児 (1~6歳) (体重:15.8 kg)		妊婦 (体重:55.6 kg)		高齢者 (65歳以上) (体重:54.2 kg)	
		ff (g/人/日)	摂取量 (µg/人/日)	ff (g/人/日)	摂取量 (µg/人/日)	ff (g/人/日)	摂取量 (µg/人/日)	ff (g/人/日)	摂取量(µg/ 人/日)
えだまめ	1.45	0.1	0.15	0.1	0.15	0.1	0.15	0.1	0.15
その他の野菜	0.615	12.6	7.75	9.7	5.97	9.6	5.90	12.2	7.50
みかん	0.02	41.6	0.83	35.4	0.71	45.8	0.92	42.6	0.85
なつみかん	0.75	0.1	0.08	0.1	0.08	0.1	0.08	0.1	0.08
その他のかんき つ	0.55	0.4	0.22	0.1	0.06	0.1	0.06	0.6	0.33
りんご	0.35	35.3	12.4	36.2	12.7	30.0	10.5	35.6	12.5
日本なし	0.30	5.1	1.53	4.4	1.32	5.3	1.59	5.1	1.53
西洋なし	0.24	0.1	0.02	0.1	0.02	0.1	0.02	0.1	0.02
もも	0.01	0.5	0.01	0.7	0.01	4.0	0.04	0.1	0.00
ネクタリン	0.35	0.1	0.04	0.1	0.04	0.1	0.04	0.1	0.04
スモモ	0.50	0.2	0.1	0.1	0.05	1.4	0.7	0.2	0.1
ウメ	1.1	1.1	1.21	0.3	0.33	1.4	1.54	1.6	1.76
おうとう	0.76	0.1	0.08	0.1	0.08	0.1	0.08	0.1	0.08
イチゴ	0.59	0.3	0.18	0.4	0.24	0.1	0.06	0.1	0.06
ブドウ	0.63	5.8	3.65	4.4	2.77	1.6	1.01	3.8	2.39
かき	0.21	31.4	6.59	8	1.68	21.5	4.52	49.6	10.4
茶	24.7	3	74.1	1.4	34.6	3.5	86.5	4.3	106
その他のスパ イス	2.69	0.1	0.27	0.1	0.27	0.1	0.27	0.1	0.27
その他のハーブ	2.5	0.1	0.25	0.1	0.25	0.1	0.25	0.1	0.25
合計			352		158		287		411

注) ・残留値は、申請されている使用時期・回数フルベンジアミドの平均残留値のうち最大のものを
を用いた(参照 別紙3)。

- ・ff:平成10年~12年の国民栄養調査(参照56~58)の結果に基づく農産物摂取量(g/人/日)
- ・摂取量:残留値及び農産物摂取量から求めたフルベンジアミドの推定摂取量(µg/人/日)
- ・レタスにはリーフレタスの値、だいこんにははつかだいこんの値、西洋わさびにはわさびだい
こんの値、キャベツには芽キャベツの値、その他のあぶらな科野菜にはなばなの値、きょうな
にはみずなの値、トマトにはミニトマトの値、その他のなす科野菜にはししとうの値、その他
のうり科野菜にはにがりの値、その他のかんきつにはすだちの値、その他のハーブにはしそ
の値及びその他のスパイスには温州みかん(果皮)の値を用いた。
- ・とうもろこし、ばれいしょ、かんしょ、やまのいも(塊茎)、すいか、メロン、しょうが、ヤ
ングコーン、しょくようほうずき、みょうが及びキウイフルーツは全データが定量限界未満で
あったため、摂取量の計算はしていない。

<参照>

- 1 農薬抄録フルベンジアミド(殺虫剤) (平成 18 年 2 月 28 日改訂) : 日本農薬株式会社、2006 年
- 2 ラットにおける単回経口投与代謝試験 (GLP 対応) : 日本農薬(株)、2004 年、未公表
- 3 ラットにおける反復経口投与代謝試験 (GLP 対応) : 日本農薬(株)、2004 年、未公表
- 4 ラットにおける胆汁中排泄試験 (GLP 対応) : 日本農薬(株)、2004 年、未公表
- 5 りんごにおける代謝試験 (GLP 対応) : PTRL West,Inc. (米国)、2002 年、未公表
- 6 キャベツにおける代謝試験 (GLP 対応) : 日本農薬(株)、2002 年、未公表
- 7 トマトにおける代謝試験 (GLP 対応) : 日本農薬(株)、2002 年、未公表
- 8 好氣的土壌代謝試験 (GLP 対応) : 日本農薬(株)、2003 年、未公表
- 9 土壌表面光分解試験 (GLP 対応) : PTRL West,Inc. (米国)、2004 年、未公表
- 10 土壌吸着性 (GLP 対応) : 日本農薬(株)、2003 年、未公表
- 11 加水分解試験/加水分解運命試験 (GLP 対応) : 日本農薬(株)、2001 年、未公表
- 12 水中光分解試験/水中光分解運命試験 (GLP 対応) : 日本農薬(株)、2002 年、未公表
- 13 フルベンジアミドの土壌残留試験成績 : 日本農薬(株)、2004 年、未公表
- 14 フルベンジアミドの作物残留試験成績① : 日本農薬(株)、2004 年、未公表
- 15 フルベンジアミドの作物残留試験成績② : 日本農薬(株)、2004 年、未公表
- 16 フルベンジアミドの後作物残留試験成績 : 日本農薬(株)、2004 年、未公表
- 17 フルベンジアミドにおける薬理試験 (GLP 対応) : (株) 環境バイリス研究所、2002 年、未公表
- 18 ラットにおける急性経口毒性試験 (GLP 対応) : 日本農薬(株)、2003 年、未公表
- 19 ラットにおける急性経皮毒性試験 (GLP 対応) : 日本農薬(株)、2003 年、未公表
- 20 ラットにおける急性吸入毒性試験 (GLP 対応) : 日本農薬(株)、2004 年、未公表
- 21 代謝物 A-1(NNI-0001-脱ヨウ素 : B)のラットにおける急性経口毒性試験 (GLP 対応) : 日本農薬(株)、2004 年、未公表
- 22 代謝物 A-2(NNI-0001-3-ヒドロキシ : C)のラットにおける急性経口毒性試験 (GLP 対応) : 日本農薬(株)、2004 年、未公表
- 23 ウサギを用いた皮膚刺激性試験 (GLP 対応) : 日本農薬(株)、2004 年、未公表
- 24 ウサギを用いた眼刺激性試験 (GLP 対応) : 日本農薬(株)、2004 年、未公表
- 25 モルモットを用いた皮膚感作性試験 (GLP 対応) : 日本農薬(株)、2004 年、未公表
- 26 ラットを用いた飼料混入投与による 90 日間反復経口投与毒性試験 (GLP 対応) : (財) 残留農薬研究所、2003 年、未公表
- 27 イヌを用いた飼料混入投与による 90 日間反復経口投与毒性試験 (GLP 対応) : (財) 残留農薬研究所、2003 年、未公表
- 28 ラットを用いた飼料混入投与による 1 年間反復経口投与毒性試験 (GLP 対応) : (財) 残留農薬研究所、2004 年、未公表
- 29 イヌを用いた 1 年間反復経口投与毒性試験 (GLP 対応) : (財) 残留農薬研究所、2004 年、未公表

- 30 ラットを用いた発がん性試験 (GLP 対応) : (財) 残留農薬研究所、2004 年、未公表
- 31 マウスを用いた発がん性試験 (GLP 対応) : (財) 残留農薬研究所、2004 年、未公表
- 32 繁殖毒性 (GLP 対応) : (財) 残留農薬研究所、2004 年、未公表
- 33 繁殖毒性 (追加一世代試験) (GLP 対応) : (財) 残留農薬研究所、2004 年、未公表
- 34 ラットにおける催奇形性試験 (GLP 対応) : (財) 残留農薬研究所、2003 年、未公表
- 35 ウサギにおける催奇形性試験 (GLP 対応) : (財) 残留農薬研究所、2002 年、未公表
- 36 細菌を用いる復帰突然変異試験 (GLP 対応) : 日本農薬 (株)、2003 年、未公表
- 37 ハムスターの CHL 細胞を用いた *in vitro* 染色体異常試験 (GLP 対応) : 日本農薬 (株)、2004 年、未公表
- 38 マウスを用いた小核試験 (GLP 対応) : 日本農薬 (株)、2003 年、未公表
- 39 代謝物 A-1(NNI-0001-脱ヨウ素 : B)の細菌を用いる復帰突然変異試験 (GLP 対応) : 日本農薬 (株)、2004 年、未公表
- 40 代謝物 A-2(NNI-0001-3-ヒドロキシ : C)の細菌を用いる復帰突然変異試験 (GLP 対応) : 日本農薬 (株)、2004 年、未公表
- 41 食品健康影響評価について (平成 17 年 3 月 31 日付け厚生労働省発食安第 0331001 号)
- 42 フルベンジアミドの食品健康影響評価に係る追加提出資料: 日本農薬株式会社、2005 年、未公表
- 43 フルベンジアミドの食品健康影響評価に係る追加提出資料: 日本農薬株式会社、2006 年、未公表
- 44 食品健康影響評価の結果の通知について (平成 18 年 10 月 26 日付け府食第 846 号)
- 45 食品、添加物等の規格基準 (昭和 34 年厚生省告示第 370 号) の一部を改正する件 (平成 19 年 2 月 27 日付け厚生労働省告示第 26 号)
- 46 食品健康影響評価について (平成 19 年 11 月 9 日付け厚生労働省発食安第 1109009 号)
- 47 農薬抄録フルベンジアミド (殺虫剤) (平成 19 年 10 月 10 日改訂) : 日本農薬株式会社、2007 年、一部公表
- 48 フルベンジアミドの作物残留性試験成績 : 日本農薬 (株)、2007 年、未公表
- 49 食品健康影響評価の結果の通知について (平成 20 年 1 月 31 日付け府食第 109 号)
- 50 食品健康影響評価について (平成 21 年 10 月 27 日付け厚生労働省発食安 1027 第 4 号)
- 51 農薬抄録フルベンジアミド (殺虫剤) (平成 21 年 8 月 4 日改訂) : 日本農薬株式会社、2009 年、一部公表
- 52 フルベンジアミド作物残留試験成績 : 日本農薬株式会社、2009 年、未公表
- 53 フルベンジアミド海外作物残留試験成績 : 日本農薬株式会社、2009 年、未公表
- 54 フルベンジアミド インポートトレランス設定に関する資料 : 日本農薬株式会社、2009 年、未公表
- 55 フルベンジアミドの追加毒性試験成績 : 日本農薬株式会社、2009 年、未公表
- 56 国民栄養の現状—平成 10 年国民栄養調査結果— : 健康・栄養情報研究会編、2000 年
- 57 国民栄養の現状—平成 11 年国民栄養調査結果— : 健康・栄養情報研究会編、2001 年
- 58 国民栄養の現状—平成 12 年国民栄養調査結果— : 健康・栄養情報研究会編、2002 年

- 59 食品健康影響評価の結果の通知について（平成 22 年 7 月 22 日付け府食第 566 号）
- 60 食品、添加物等の規格基準（昭和 34 年厚生省告示第 370 号）の一部を改正する件（平成 23 年 7 月 19 日付け厚生労働省告示第 241 号）
- 61 食品健康影響評価について（平成 24 年 1 月 19 日付け厚生労働省発食安 0119 第 5 号）
- 62 農薬抄録フルベンジアミド（殺虫剤）（平成 23 年 10 月 17 日改訂）：日本農薬株式会社、2011 年、一部公表予定
- 63 水稻の代謝試験（GLP 対応）：日本農薬株式会社、2004 年、未公表
- 64 トウモロコシの代謝試験（GLP 対応）：Bayer CropScience、2005 年、未公表
- 65 フルベンジアミド作物残留試験成績：日本農薬株式会社、2010 年、未公表
- 66 フルベンジアミド海外作物残留試験成績：Bayer CropScience、未公表
- 67 ラットを用いた急性神経毒性試験（GLP 対応）：Bayer CropScience LP、2003 年、未公表
- 68 V79 細胞を用いた遺伝子突然変異試験（GLP 対応）：Bayer HealthCare AG、2003 年、未公表
- 69 マウスを用いた小核試験（GLP 対応）：Bayer HealthCare AG、2005 年、未公表
- 70 マウスの周産期投与による眼発達への影響に関する試験（GLP 対応）：Bayer HealthCare AG、2006 年、未公表
- 71 ラットを用いた免疫毒性試験（GLP 対応）：Bayer HealthCare AG、2005 年、未公表